

現地との交流を大切にした日本人学校で学習活動

玉野市立荘内中学校 教頭 片山 明彦
報告記録 富谷 忠明

アムステルダム日本人学校の概要そして現地校との交流学习について報告が行われた。

1 アムステルダム日本人学校について

学校規模・・・ 小学部 222人 12クラス
中学部 49人 3クラスの中規模校
カリキュラムの特徴・・・モジュール授業の工夫を行い、英会話・・・オランダ語の時間を週2～3時間実施。



2 現地校との交流学习について

(1) 学年別の交流の内容

小学部3年生～5年生・・・現地校と日本人学校の相互学校訪問を1日の活動として実施。

小学部6年生・・・現地校との相互ホームステイを1泊2日の活動で実施。

中学部・・・英語での活動を中心に現地校との相互交流を実施。

(2) 交流学习の成果

言葉や文化・風習の違いを超えて、相手の気持ちを読み取ったり、お互いの思いを伝えあうことの大切さを交流学习から学んでいる。

小学部6年生の相互ホームステイの活動では、不安な顔・気持ちでホームステイに参加した児童が1泊2日のホームステイを終えると、成長し自信のある顔になって帰ってくる。

日本人学校の教師も現地校の教職員宅にホームステイ。片山先生は、校長宅にホームステイ。英語とオランダ語で会話。分かりやすくゆっくりと会話をしてくれ、家族全員で親切に受け入れてくれ充実した交流になった。

児童は、この体験が大きな宝物となっている。

以上の説明があり、報告を終えた。

次のような質疑応答があった。

質問 現地校と交流を進める上での問題点はどんなことがあるか。

答え 現地校と日本人学校の教育システムの違いなどから、日程の調整が難しい。

現地校で交流を担当するコーディネイターの意識や役割が交流学习に大きく左右される。

日本人学校と交流をしたいという現地校を見つけることが難しい。

流暢に会話できる力も大切だけど、どれだけお互いを知りたいか、関わりたいかという強い思いが交流学习を実施しするうえで重要である。